

令和3年度(2021年度) 施政方針

令和3年度(2021年度)第1回市議会定例会が開会され、石阪市長は2月24日の本会議で施政方針を表明しました。ここでは、その概要を掲載します。全文は町田市ホームページでご覧いただけます。

市HP 令和3年度施政方針 検索 企画政策課 ☎724・2103

未来へつなぐ投資で 希望の持てるまちへ



町田市長 石阪 文一

2021年度の 市政運営の視点

新型コロナウイルス感染症は、いまだ予断を許さない状況が続いています。

見えない脅威によって、私たちの日常は大きく変わりました。このことは市内経済にも影を落としており、事業者の皆様のご苦労は計り知れないものであるかと思えます。

こうした中、我が国でも皆様お待ち望んでいたワクチン接種が始まり、一筋の光が見えてまいりました。

新しい生活様式が定着し、市役所業務の在り方も変わっていく中では、スピード感をもってさまざまな改革に取り組んでいかなければなりません。

また、外出自粛の経験を通して、まちが賑わい、活性化していくためには人の移動や交流が欠かせないということも改めて実感しました。

町田市の立地や交通利便性、都市とみどりの"ちょうどよさ"は、人々の暮らし方や働き方に対する価値観の変化を受け入れるポテンシャルを秘めています。

コロナ禍にある今、目の前の問題にしっかりと向き合うと同時に、少子高齢化や公共施設の老朽化が進む中では、将来を見据えていち早く動き出さなければならないと強く感じています。市の責務として安定的な歳入の確保に努めながら、未来へつなげる投資、町田市のポテンシャルを更に引き出す投資を的確なタイミングで行っていきます。

2021年度の 主要な施策

将来を担う人が育つまちをつくる

学校教育のデジタル化の推進

小学校5・6年と中学校の全学年それぞれ1教科ずつに、教科用デジタル教材を導入します。あわせて、クラウド型小中一貫学習支援コンテンツを小・中学校の全学年で導入し、児童・生徒一人ひとりに合った効果的な学びを提供することで、学ぶ意欲やコミュニケーション能力を伸ばしていきます。



給食センター方式による 中学校給食の実施に向けて

成長期の中学生全員に安全・安心で、栄養バランスが整えられた「温かい給食」を提供するため、給食センター方式による全員給食を目指して、基本計画を策定します。

子どもの居場所の充実

新たな「まちとも」は、4月からすべての小学校で実施します。同じく4月から、すべての学童保育クラブで高学年児童の受け入れを始めます。

更に、小山田中学校区子どもクラブの建設工事に着手し、2021年度内の開館を目指します。充実した子どもセンターや子どもクラブは、町田市の子育て環境の魅力の一つであるため、コロナ禍においてもしっかりと整備していきます。

義務教育就学児医療費助成制度の 所得制限撤廃

4月から義務教育就学児医療費助成制度の所得制限を撤廃します。これにより、乳幼児、小学生、中学生のすべての子どもたちが医療費助成を受けられるようになります。

安心して生活できるまちをつくる

新型コロナの感染防止・抑制体制

町田市発熱相談センターと地域外来・検査センターの体制を引き続き維持し、感染症の拡大防止に努めていきます。

ワクチン接種についても、東京都と情報共有を図り、町田市医師会とともに、万全な体制を整えています。

今後も着実に準備を進め、接種を希望される方々に行き渡るよう注力していきます。

新しい熱回収施設の整備

2022年1月に稼働する町田市バイオエネルギーセンターは、生ごみ等を発酵させて取り出すガスやごみの焼却熱を利用して発電を行うなど、効率良く、多くのエネルギーを創り出します。災害発生時には自己電源を備えた防災拠点として活用します。

また、施設で発生する熱エネルギーは、市立室内プールや2022年4月のオープンを目指す温浴施設に供給し、有効に利用します。この温浴施設は、幅広い世代の健康増進を図ることに加え、人と人がつながり、交流する場としていきます。



熱回収施設等 (完成予想図)

(仮称)町田市 地域ホットプランの策定

「町田市地域経営ビジョン2030」と「第3次町田市地域福祉計画」の改定にあたり、新たに「(仮称)町田市地域ホットプラン」を策定します。これに基づき、誰もが地域における自分の役割や活躍の機会を得て、地域の中でホットとできる居場所を見つけられるような共生社会の実現を目指します。

賑わいのあるまちをつくる

町田駅周辺の憩いと賑わいの創出

原町田大通りの車道や歩道の一部を、休憩や飲食ができる「パークレット」に転用し、新たな憩いと賑わいの空間を創り出す社会実験を行います。

また、緑豊かな憩いの拠点「芹ヶ谷公園」芸術の杜」では、子どもも大人も学び、楽しめるようなさまざまな活動が展開される「パークミュージアム」

の実現に向けた取り組みをしっかりと進めていきます。2021年度は、引き続き(仮称)国際工芸美術館の実施設を進めるとともに、アート・創作活動への興味・関心のきっかけを育む場となる体験工房の検討を行います。



芹ヶ谷公園のイベントの様子

町田市新商品・ 新サービス開発事業の拡充

開発経費を補助金の対象に加えるなど、事業をより充実したものへとバージョンアップさせます。新たなビジネスモデルや新技術の導入に意欲的な事業者への支援を一層手厚くすることで、市内事業者の競争力強化と付加価値の向上を図っていきます。

暮らしやすいまちをつくる

(仮称)町田市都市づくりの マスタープランの策定

「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン」は、20年後の町田市での暮らし方や、まちの中の活動イメージを描きながら、町田市に関わるすべての人が、「まちを良くしよう、楽しくしよう」と自ら活動したくなる気持ちを共有する「まちづくりの基本書」となることを目指します。

多摩都市モノレールの延伸

延伸ルートが近く確定し、次の段階に大きく進み出すタイミングを迎えます。中心市街地や木曽山崎団地、忠生・北部エリアにおける3つのエリアのまちづくりを、「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン」の中で、「次世代に向けて新たな暮らしを牽引する3つのプロジェクト」として位置づけます。新しいまちの姿やそれを実現するための取り組み策の検討を深め、具体的なまちづくり事業につなげていきます。

鶴川駅・相原駅周辺のまちづくり

鶴川駅周辺では、昨年、駅南口の土地地区画整理事業と駅北口交通広場の事業認可を取得し、本格的に事業に着手していきます。今後、駅の南北自由通路の整備や、小田急電鉄による駅舎改良と駅前商業施設の開発なども連動して進めていきます。

相原駅周辺では、1月に駅東口の地区計画を都市計画決定しました。先行して定めた駅西口の地区計画とあわせて、駅周辺のまちづくりを計画的に進めていきます。

第3次町田市環境 マスタープランの策定

環境に配慮した行動が重要度を増している中、新たな環境基本計画及び環境行動指針である「第3次町田市環境マスタープラン」を策定します。これに基づき、地球温暖化対策の強化や生物多様性の保全に取り組むことにより、良好な環境を将来へ引き継いでまいります。

行政経営改革の取り組み 地域の課題解決と魅力向上に向けた行政経営改革の推進

「まちだ〇ごと大作戦18-20+1」によって、組織間の連携がこれまで以上に促進され、市民の皆様がやりたい夢の実現をサポートする、地域と行政の新たな関係性を構築することができたと感じています。

今後は、職員がいわゆる「プラットフォーム」として、地域の人と人をつなぎ、対話をしながら、地域の課題解決を図るとともに、地域の魅力を向上させ、市民の皆様と一緒に明るい未来を創っていきます。

行政のデジタル化と マネジメント改革の推進

行政手続きの原則オンライン化を強力に進めるとともに、キャッシュレス化、介護認定業務や教育現場におけるタブレットの活用を促進するなど、行政のデジタル化を加速的に推し進めていきます。

また、デジタル化の効果を最大限発揮することにより、市民の皆様の要望にスピーディーに対応しようとする「クイックレスポンス」を旨とする組織風土を確立していきます。

財政規律の保持と 未来へつなげる投資

市民の皆様の生活や市内経済の支えとなる取り組みをもれなく、躊躇なく行いながらも、すべての事業及びその進め方をしっかりと見直すことで、将来世代の負担をできるだけ残さないよう財政規律の保持に努めていきます。

また、将来にわたって必要な公共サービスを維持向上させるため、複合化も含めた再編を着実に進め、公共施設のより良いかたちを実現していきます。

あわせて、多くの人々や多くの事業者から「選ばれるまち」として、しっかりと町田というブランドを高め、将来世代につないでいけるよう行政経営に取り組んでいきます。

むすびに

2021年度は、現行の町田市基本構想と基本計画「まちだ未来づくりプラン」の最終年度です。まずは現状を踏まえ、やるべきことについては、しっかりと最後までやり遂げていくことが、大事であると考えております。

その上で、積み残した課題は、次期基本構想・基本計画「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040」で受け止めていきます。

こうした時代だからこそ、誰もが思いやりを持って優しくつながり、お互いが支え合っていることを実感できるまちが必要とされています。

このコロナ禍で感じたこと、学んだことを教訓に、市民の皆様と共に、寛容で、未来に希望の持てる地域社会をつくっていけるよう、市政運営に臨んでまいります。